

体験して学ぼう!

金融・経済・起業

Financial Quest

金融クエスト



5

将来のために資金を運用しよう!

資産形成と金融商品の特徴を学ぼう

体験して学ぼう!

金融・経済・起業

Financial Quest

金融クエスト

5

将来のために資金を運用しよう!

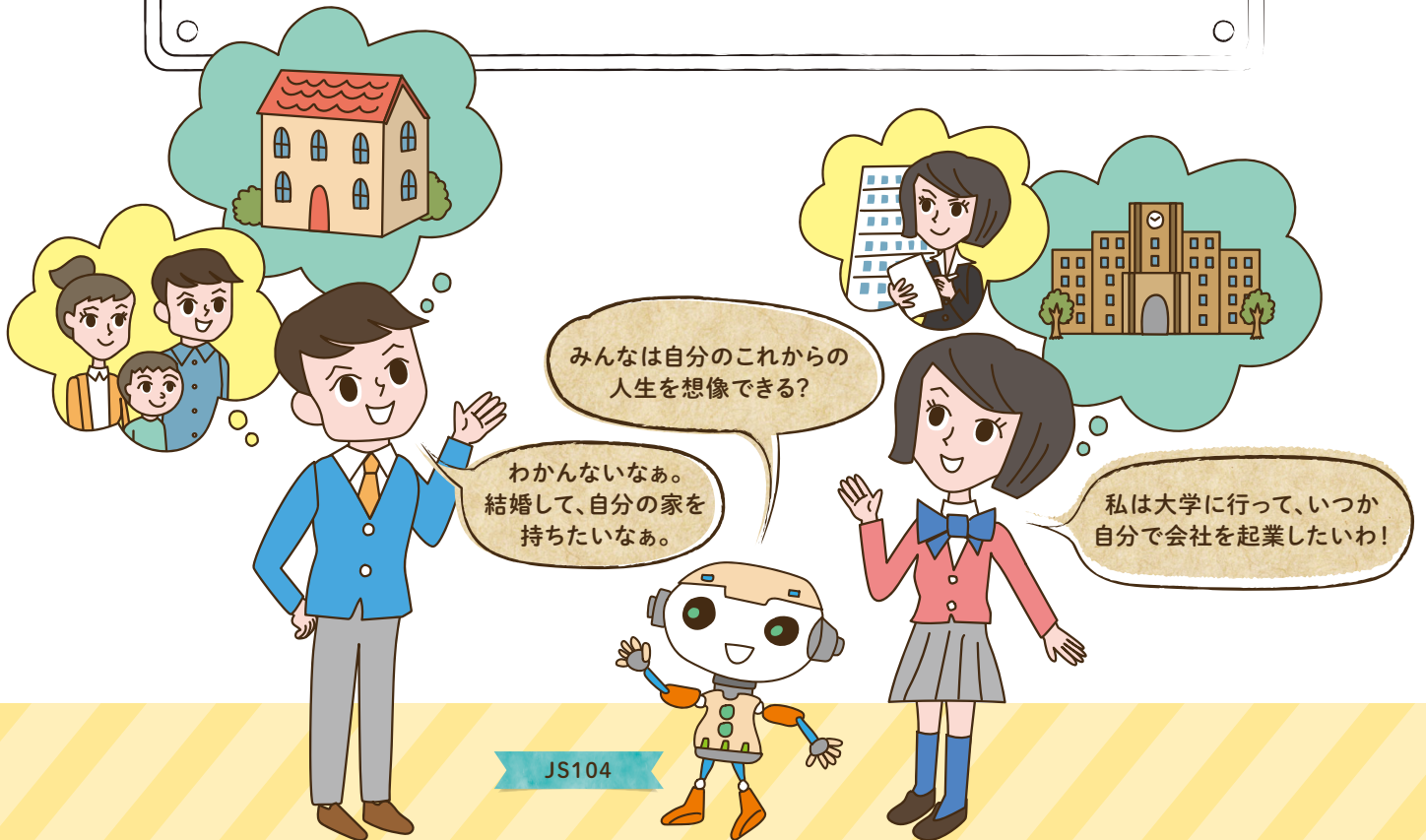
資産形成と金融商品の特徴を学ぼう

「金融クエスト」では、ゲームの世界に入り、経済や金融に関するさまざまな課題解決を体験します。

今回の「金融クエスト」の課題は、「将来のために資金を運用しよう!」です。

みなさんには、自分の資産を運用し、“資産形成”してもらいます。

案内役のJS104と一緒にチャレンジしてください!



JS104

▶ 動画①

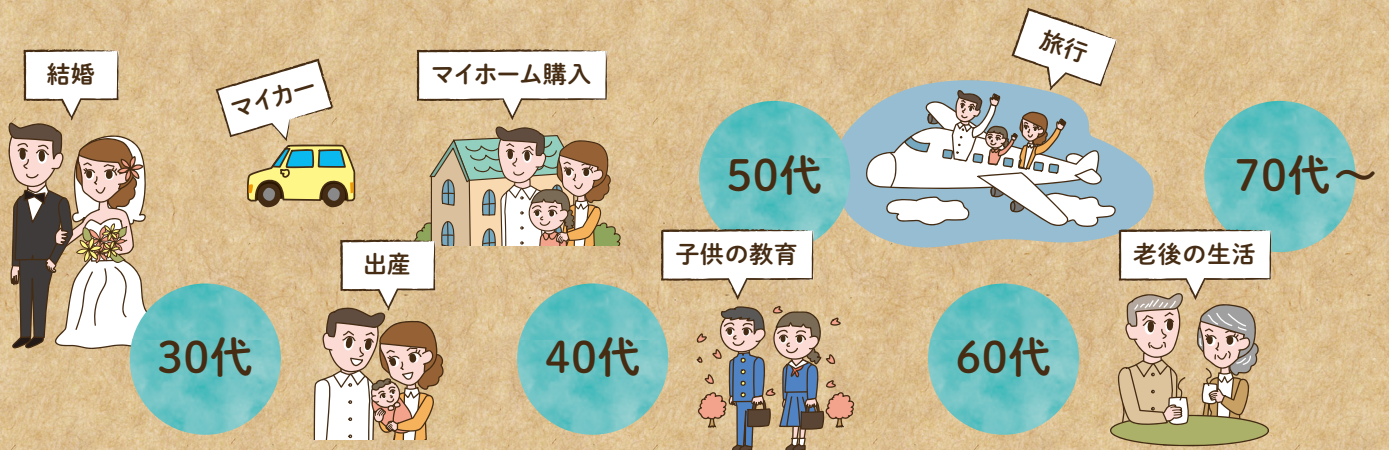
はじめに



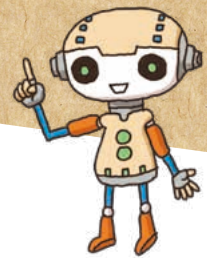
2分

Check!





みなさんのこれからの人生には、どのようなことがあるのでしょうか。人生のさまざまなことにはお金がかかります。生活、進学、夢をかなえるため…いざというとき(けがや病気)にお金が必要となってくるかもしれません。将来必要となる資金やいざというときの備えとなる資金を作っていくことを“**資産形成**”といいます。資産形成を行うためには、**金融商品**の特徴を理解して、目的に合わせて選んでいくことが重要です。

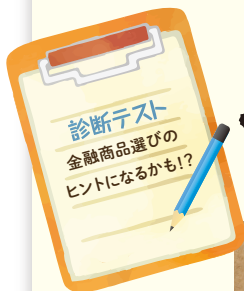


WEBワーク /



WEBワーク

診断テストを
してみよう



あなたに合った金融商品が分かる? 診断テスト

Q1～Q3を読み、自分の考えと近い方へ○をつけてみよう。

Q1 苦勞して貯めたお金で旅行することにしました。旅の計画はどうしますか?

A 思いがけない楽しいことに出会えたりするかもしれない。細かな計画は立てない!!

B 何があるかわからないから念入りに計画を立てる!

Q2 友達といつものレストランに行きました。どちらのメニューを注文する?
「お気に入りの“いつものメニュー”」
「どんな食材を使っているかわからない“シェフのお任せメニュー”」

A 苦手なものがあるかもしれないが、新しいメニューに挑戦!!

B 苦手な食材が含まれているかもしれないと不安に思い、いつもと同じメニューを注文する

Q3 新しい商品やサービスが話題になったとき、あなたは どうしますか?

A 便利なものか自分に使えそうかなどぜひチェックして取り入れたい!

B 今使っているモノで特に不便がなければ、あえて取り入れようとは思わない。

A に〇が0

安全重視な
慎重タイプ

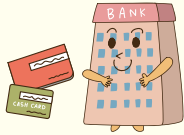
A に〇が1つ

バランス重視の
堅実タイプ

A に〇が
2つまたは3つ

チャレンジ精神旺盛な
積極的タイプ

あくまで参考です



あなたは預貯金があうかもしれません。



あなたは債券があうかもしれません。



あなたは株式があうかもしれません。

▶ 動画②

ワーク①説明
金融商品(預貯金、債券、株式)の
特徴をみてみよう!



4分

Check!



ワーク Work

金融商品(預貯金、債券、株式)の特徴をみてみよう!



金融商品の特徴を知るための3つの基準

金融商品には、預貯金、債券、株式などさまざまなものがあります。
それらの特徴を見る視点には、安全性、収益性、流動性の3つがあります。

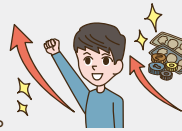
安全性

元本(元手)や利子の
支払いが確実か。



収益性

期待できる
収益の大きさ。



流動性

必要なときにすぐに
換金できるか。



預貯金

「預貯金」とは、銀行などの金融機関にお金を預けることです。

- 1,000万円までなら預けたお金が必ず戻ってくる「元本保証」があるため、安全性は高いといえます。
- 定期的に利子がもらえますが、株式や債券と比べると少なく、収益性は低いといえます。
- ATM等で必要な時に引き出すことができるため、流動性が高いといえます。



わずかだが
定期的に利子を
受け取れる。



預け先の金融機関による
元本保証がある。
(元本1000万円とその利子まで)

債券

「債券」とは、国や地方公共団体、会社(企業)などがお金を借りる時に発行する「借用書」のようなものです。
国が発行するものを国債、会社が発行するものを社債といいます。

- あらかじめ決められた期限に、決められた金額が受け取れますが、万が一、債券を発行している会社などが倒産した場合には、元本の返済や利子の支払いが行われなくなる可能性もあるため、預貯金と比べると安全性は低いといえます。
- 一般的な債券は、定期的に利子を受け取ることができ、通常、預貯金より高い利子が期待できるため、収益性は預貯金より高いといえます。なお、期限前に売った場合、売った時の債券の価格の変動によって損することもあれば得することもあります。
- 換金については、数日要する必要があるため、預貯金より流動性は低いといえます。

※発行する会社や国によって特徴は異なります。

決められた期限に
決められた金額を
受け取れる。



定期的に利子を
受け取れる。



株式

「株式」とは、株式会社が活動資金を集めるために発行するものです。

- 株式は、元本保証ではなく、万が一発行している会社が倒産した場合には、株式自体の価値がなくなることがあるため、安全性は預貯金や債券と比べると低いといえます。
- 株式会社が得た利益の分け前である「配当金」を受け取ることができます。配当金は、通常、預貯金や債券の利子より多いため、収益性は預貯金や債券より高いといえます。
なお、株式の価格は日々変動しているため、大きく得ることもあれば損することもあります。
- 換金については、債券と同様、数日要する必要があるため、預貯金より流動性は低いといえます。



株式の価格は日々変動。



株式会社が得た利益の分け前である
「配当金」を受け取れる。

※株主優待がある株もあります。



金融商品(預貯金・債券・株式)の特徴を確認しよう!

()に適切な言葉を入れるか、
当てはまるほうに○をつけてください。

1.「預貯金」

- 定期的に利子が受け取れる。
- ()があるので安全性が高い。
- 安全性と流動性は(高い・低い)。収益性はあまり望めない。

2.「債券」

- 定期的に利子が受け取れる。
- 決められた期限には()が受け取れる。
- 決められた期限より前に売却できるが、状況によって損することがある。じょうきょう
- 安全性は、預貯金より少し(高い・低い)。
- 収益性は、預貯金より少し(高い・低い)。
- 流動性は、預貯金より少し低い。

3.「株式」

- 会社が利益を得たら()が受け取れる。
- 株式の価格は日々()しているため、大きく得することもあれば、損することもある。
- 安全性は、預貯金より(高い・低い)。債券より(高い・低い)。
- 収益性は、預貯金より(高い・低い)。債券より(高い・低い)。
- 流動性は、預貯金より少し低い。

ワーク Work

動画③

ワーク②説明
20年後の世界に移動
資産形成を体験!



2分



20年後の世界に移動 資産形成を体験!

みな
20年後、皆さんは仕事をして収入を得ています。
20万円ほど余裕資金ができたので投資をしてみたいと思っています。



ワークの進め方

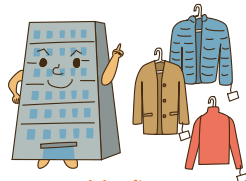
1 グループ(4人程度)に20万円の余裕資金があります。



2 預貯金、債券(日本の国債)、株式(2種類の株式Aと株式B)の4つの金融商品の中からどの金融商品に投資をして、資産形成をしたいかグループで考え、2つ選んでください。
ワークシート②の選んだ金融商品の欄にあるクエスト銀行券を囲もう。

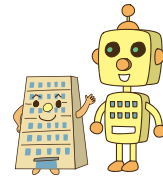


2種類の株式の特徴



株式A

日本を代表する衣料品製造販売メーカーで、日本のシェアトップ。海外でも人気。



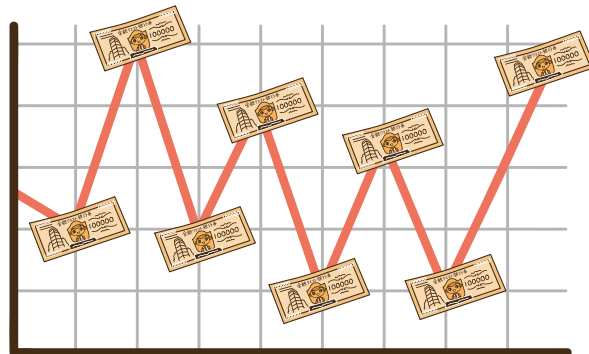
株式B

ロボットの研究開発を行う新しい会社(企業)で、将来有望だがまだ利益はあまり出ていない。

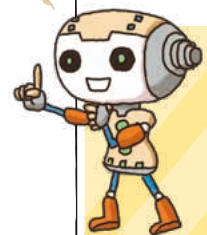
3 ニュースが6つ発生します。
社会情勢カードをめくり、6つのニュースを確認します。



4 ニュースによって、金融商品の価値が変動することを確認しよう!
金融商品の増減額をワークシート②のこの欄に記入しましょう。



利子や配当がもらえるかもよ!



5 自分たちが選んだ金融商品の総資産を確認しよう!
総資産額を計算して、ワークシート②「総資産額」の欄に記入しましょう。

WEBワーク /



WEBワーク

資産形成を体験



資産形成を体験!

- 金融商品を2つ選ぼう!
- 選んだ金融商品の欄にあるクエス銀行券を囲もう!
- すべての金融商品の増減額を記入しよう!
- グループで選んだ金融商品の総資産額を計算しよう!

(単位:円)

資産(2つの金融商品に投資すること)				
金融商品	株式A (衣料品会社) 前期の配当金 4000円	株式B (ロボット製造会社) 前期の配当金 500円	債券 (日本の国債) 毎年の利子1%	預貯金 毎年の利子0.001%
				
ア 当初資産	100,000	100,000	100,000	100,000
イ	ニュース1			
	ニュース2			
	ニュース3			
	ニュース4			
	ニュース5			
	ニュース6			
ウ 合計(ア+イ)				
エ 配当金・利子				
オ 総合計(ウ+エ)				

総資産額(1つ目の商品オ+2つ目の商品オ) = 円

自分たちが選んだ商品に○をつけ、気付いた点を書きましょう

1つ目の商品(株式A 株式B 債券 預貯金)

自分たちが選んだ商品に○をつけ、気付いた点を書きましょう

2つ目の商品(株式A 株式B 債券 預貯金)

まとめ Summary

動画④

まとめ



6分

Check!



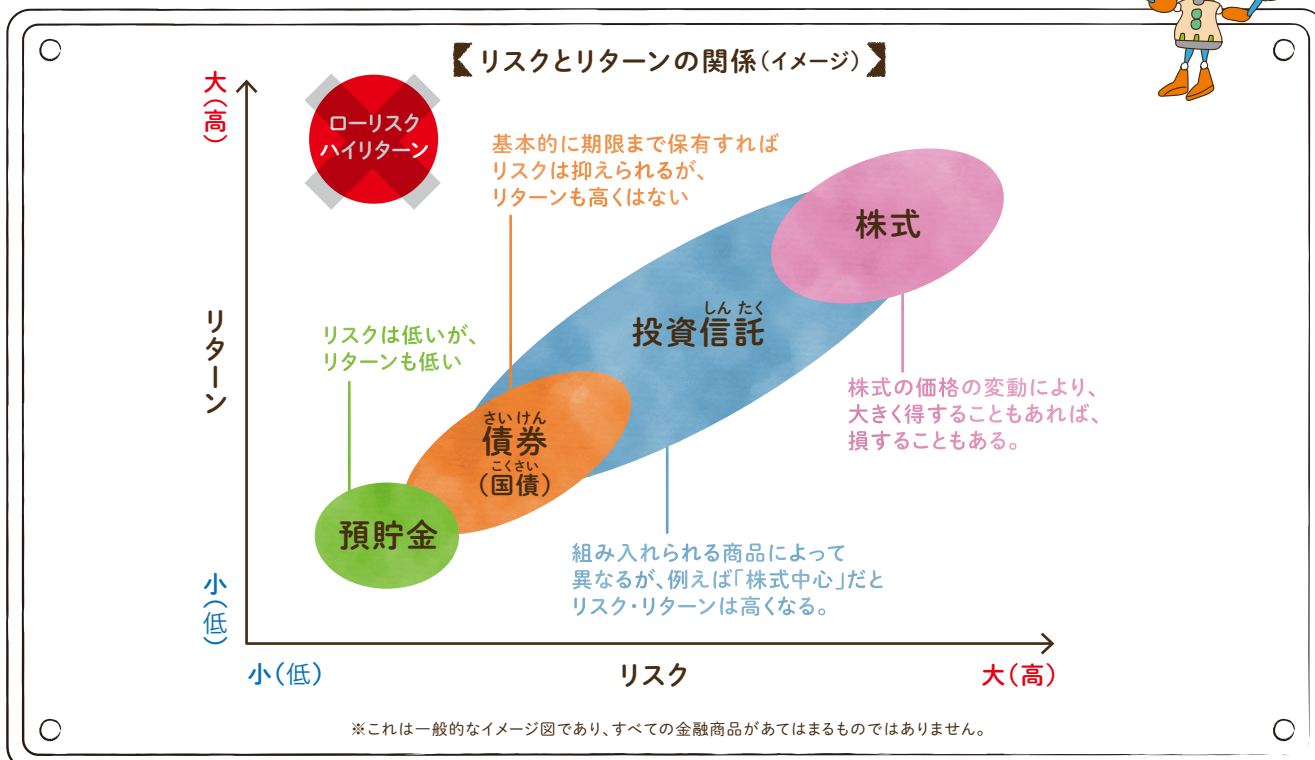
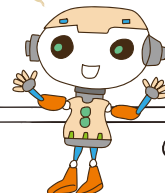
リスクとリターン

運用の世界では、**リターン**とは運用の結果期待できる成果(収益もしくは損失)のことをいい、**リスク**とは、そのリターンである値動きの振れ幅のことをいいます。

金融商品によってそのリスク・リターンの大きさは違います。

リスクを低く抑えようとすれば当然、得られるリターンは低下し、高いリターンを得ようとすればリスクも高まります。よって、「**ローリスク・ハイリターン**」の金融商品は存在しません。

金融商品の特徴はつかめましたか？



分散投資

分散投資とは、「分けて運用」することです。

分け方には、金融商品の分散、国・通貨の分散、時間の分散などがあり、これらを投資に取り入れることによって、リスクの軽減をすることができます。

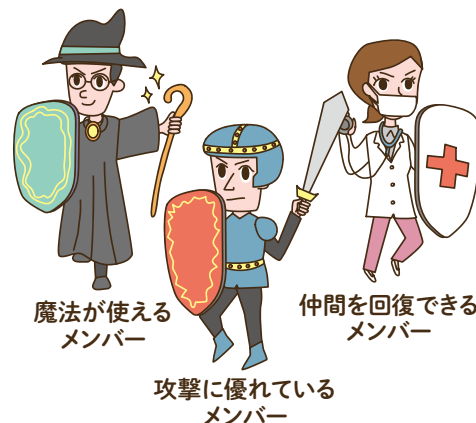
● ロールプレイングゲーム(RPG)だったら…?

例えば、あなたがパーティーを組んで冒険するロールプレイングゲームをします。ゲームの中ではどんな敵が現れるかわかりません。

攻撃に優れているメンバー、魔法が使えるメンバー、仲間を回復できるメンバーなど特徴の異なるメンバーで冒険に出るのではないのでしょうか。

資産形成における金融商品も同じです。

特定の商品だけに投資をするのではなく、複数の商品に投資を行うことによってリスクを減らす。これが分散投資です。



POINT

投資信託

投資信託は、資産運用の専門家が国内外の複数の株式や債券などを組み合わせて運用(分散投資)する金融商品です。少額でも投資が可能です。

運用の結果で得た利益は、投資した金額に応じて投資家に分けられます。換金に数日かかる場合もあるため、流動性は預貯金に比べると少し低くなっています。組み合わせている金融商品によって安全性や収益性に幅がありますので、どのように金融商品を組み合わせて運用しているか確認することが大切です。

専門家が運用



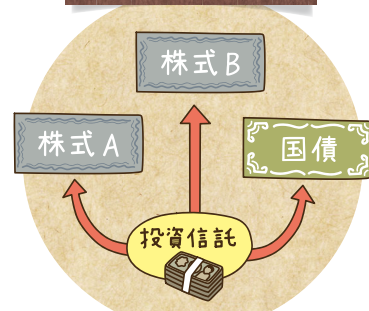
投資の専門家が、投資家に代わって運用する。

少額で投資可能



多額の資金を準備する必要がない。

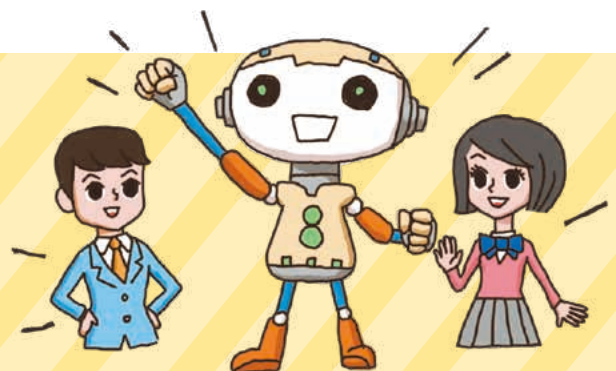
毎月決まった金額で買い付ける積立投資なら、1,000円程度の少額で購入できる場合もあります。

分散投資で
リスクを軽減

分散投資をする仕組みなので、リスクの軽減につながる。

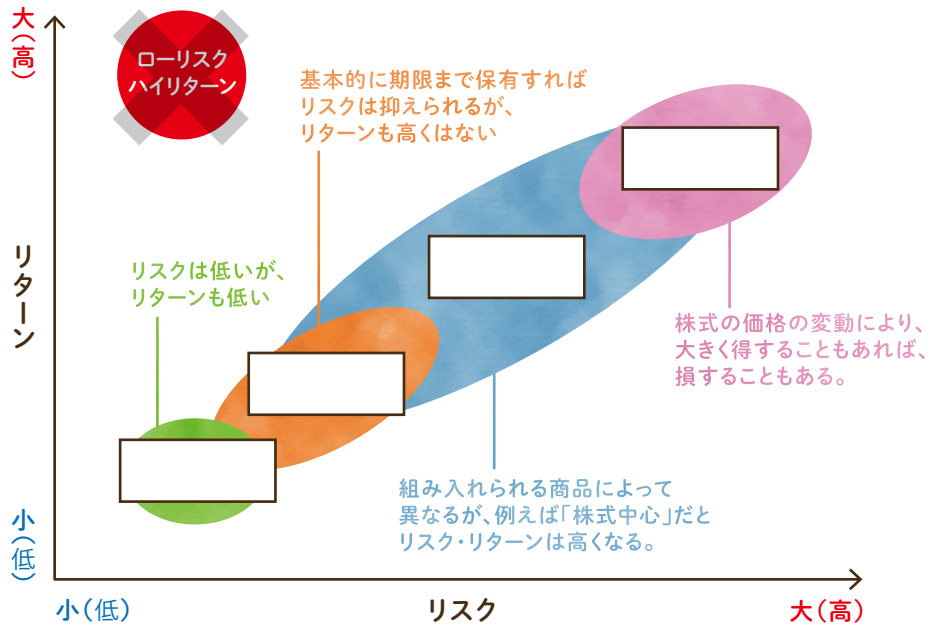
●この金融商品がよい!というわけではなく、状況や用途・目的によって合う金融商品があります。特徴を見極めて、金融商品を選ぶようにしましょう!!

●資産形成には、長期的な視点も重要です。例えば、少ない額でも、長期的に積み立てていけば、“時間の分散”の効果などを生かしながら、まとまった資産をつかっていくこともできるのです!





1. リスクとリターン関係の図です。それぞれの金融商品を埋めてみましょう。



2. 次のような場合、あなたはどの金融商品を選びますか？

○で選び、理由を書きましょう。(複数選択可)

来年に使う予定が決まっている資金は？

次のうちの

預貯金
 株式
 債券
 投資信託

に投資します。

なぜなら

理由:

キーワード: 安全性、元本

自分の老後(30年以上先)のための資金は？

次のうちの

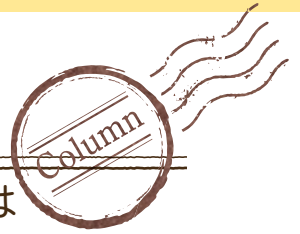
預貯金
 株式
 債券
 投資信託

に投資します。

なぜなら

理由:

キーワード: 収益性、長期

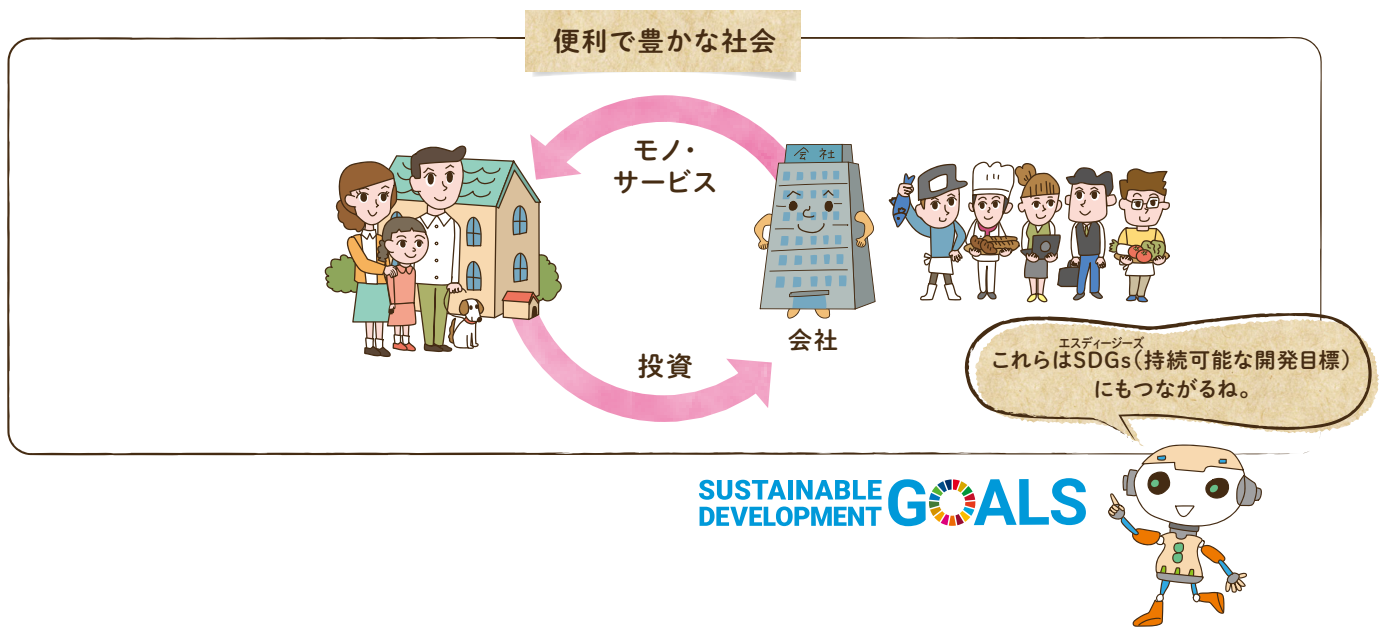


実は…株式などの金融商品を買って投資をすることは 社会貢献の一助となっているのです。

私たちの周りには多くの会社(企業)があり、会社が提供するモノやサービスによって、私たちの社会や暮らしが豊かになります。会社は、従業員を雇ったり材料を仕入れたり、新たなものやサービスを生み出し成長してくため資金が必要です。

株式は会社が事業を行うための資金調達のために発行しています。

私たちは、金融商品の特性やリスクなどをよく理解することで、資産形成における選択の幅を広げることができます。そして、私たちが金融商品を選択したことによって会社などに提供された資金は、会社などの事業活動などに活かされ、結果として社会の発展につながっていくのです。





将来のために資金を運用しよう!

資産形成と金融商品の特徴を学ぼう

2021年4月 発行

2023年3月 改訂

2024年8月 改訂

制作 金融経済教育推進機構

発行 株式会社 清水書院

発行者の許可なしに本テキストの内容の全部または一部を無断で複写、複製または転載することを固く禁じます。なお、これらの承諾については、金融経済教育推進機構まで、お問い合わせください。



年 組 番